

■ 第二次 風と石と女の島 J E J U 一周自転車 独り旅

韓国・済州島 【第二弾】 及び

ハルラ山 登山紀行

2016年4月20日~27日 単独行 川崎義文

5ヶ月前、JEJU Do (済州島) を自転車で環島してその楽しかったことが頭を離れない。気候も緩んできた、もう一度ヤルカ！ ともや衝動的に計画し実施した。山仲間且つチャリ愛好家's。そして韓国及び中国勤務の長い50年来の友人(最近チャリに興味を示し始めた奴)に声を掛けたが、いつもながらの急な話なので当然の事 幸か不幸か・たぶん幸であろう、今回も単独行とあいなった。

JEJU 行・格安航空券3万円ぐらいのものが沢山ある。ン！ 往路が上海トランスファー 18時間ッテナチケットがある。上海にはトランジットで何度か降りたが空港の外に出たことが無い。すぐにその中国東方航空(MU便)を予約し、往復合計4便の座席を確定した。座席はもちろん主翼に邪魔されない展望のきく Window Seat である。JEJU での宿は前回で御馴染みになっている TheForest を Agoda で予約した。JEJU city 以外のお宿は行き当たりばったりで探すこと、いつもの通り。

4/20 (水) 中型サブザックに8日間の荷物を詰めしたが、ザック容量の7割にも満たない。それでも上海一夜の行動を楽にするため小さい段ボール箱に JEJU での衣服などを受託荷物としてスルーで運んでもらおうとしたが、一旦上海で受取り・改めて JEJU まで預けなければならぬと云う。MUは日にちが変わるトランスファーではスルー出来ないとの事。そうだな！ 18時間なんだもん・・・結局、すべての荷物を担いで上海を徘徊することにした。上海で受取・再預けなどの手間より楽チンな軽量の荷物だから。

1万円分(9,656円⇒520元/1元=18.57円⇒20円)を Exchange、at Narita。2年前、ニュー ジランドの行き帰りに立ち寄った広州での余り金 50 元を合わせて合計 570 元だ、上海一夜での費用には充分であろう。

新規発行の旅券に初めての出国スタンプをもらう。前回の旅券は入出国を繰り返すこと約30回、訪問国も30数か国に及び、空白の査証欄は残すことあと2ページになっていた。新規旅券も10年間を選んだ。あと10年→83歳か！ 元気で海外旅行を楽しめる健康を維持できるように祈りながら・・・

「上海周辺が悪天候のため 出発が遅れます」とのアナウンスあり。1h20m 遅れで Taxing。15:35 離陸。機内はギュウギュウ満席、立ち席で吊革にぶら下がっている奴が数多あり(これはウソ!)。確保している72A席で展望を楽しむ。Jeju 直行便より少し南よりのコースを飛んでいる。6日前(4月14日)に始まった熊本地震は未だに揺れ続けている。その丁度真上を飛んだが雲の合間に散村が見え隠れする程度だった。今もその辺は揺れているのだろう、早く収まる事を切に願う。

右方には最終目的地の済州島が見えるはずだが、日本を離れると全くの雲上飛行になる。済州島を通り過ぎ、上海に至る。現地時間 17:26 Landing。広い広い空港は雨に煙っている。18:20 通関完了。明日の出発カウンターを確認し 序でに自動機でチェックインし 搭乗券をプリントした。これが効を奏して Maglev 料金が 10 元 割引になった。

さあ〜テ これから十数時間を潰さねばならん、第一目的の「磁浮列車」(MAGLEV。リニアモーターカーとは和製英語で世界では通用しないとの事)に乗る。第一ターミナルと第二の中間点に駅がある。片道50元、飛行機の搭乗券を呈示すれば40元。19:22 発、ゆったり

した豪華な座席だ、揺れ・騒音は少ない。1分後、車内に301kmが示された。一日の内、午前と午後の或る時間帯だけが時速430km走行である。この時間帯は時速300km。30kmを約8分で9:30龍陽路駅着。そこから網の目の如く張り巡らされた地下鉄に乗り、一度乗り継ぎの失敗の後、南京東路駅で下車し、外灘(ワイタン・BUND)に至る。スゲェ〜!!!河の対岸には高層ビルが視界180度に亘り林立し、そのそれぞれが自由闊達に色とりどりにライトアップされている。その規模の大きさヨ!さすが中国。眼前の河にはたくさんの遊覧船がこれまた満艦飾でゆったりと行き来している。振り返り見る背後には中層の伝統的・古式豊かな建物が右左に際限なく続いている。

こりゃ〜凄い!やはり中国だ、倭の国が及ぶべくもない。浦東AP・磁浮列車・地下鉄・街の清潔さ・人民の親切さ・・・現在の倭國のマスコミは偏見に満ちた或るいは妬みに満ちた中国報道と思われる。

雨が激しくなった。軽いとは云え中型ザックを背負ったまま折り畳み傘をかざしながら暫し河岸を散策し、地下鉄駅に向かう途中で薄汚い食堂に入り水餃子を喰う。上海では行き当たりばったりの散策計画で、宿を取っていない。慣れない土地で下手に投宿し明日のJEJU行の飛行機に乗り遅れたら大変だ、と。雨の中、ワイタンで流しのタクシーを物色するが、'地球の歩き方ガイドブック'で推奨するタクシーがなかなか現れない。来た!と思えば現地のビジネスマンの予約車か、深夜まで残業している手際よいビジネスマンに横取りされてしまう。10:50漸く安心できると云われる錦江社のタクシーを捕まえられた。午後11時を過ぎれば3割増しになる。磁浮列車で8分/40元の道のりはタクシーで約60分/222元、0時頃、浦東AP第一ターミナルに着いた。JEJU行のカウンターを再確認し、一階の長椅子に横たわる。約5時間グッスリ睡眠がとれたようだ。成田からの長旅で身体的精神的に相当疲れていたのだろう。

4/21(木) '上海は今日も雨だった' もう一度MAGLEVで上海市街に出ようかと思ったがこの雨では楽しめないだろう。広いAPを散策し朝食を取り名物空港ホテルを冷やかし・・・10:05JEJUに飛び発つ。MUのこの路線では食事も酒も出ない。300mlペットボトルの水が配られただけだ。たった1h25mの飛行だ、シャーナイな、でも「国際航路」だぞ!!

雲上から高度を下げれば西帰浦のサッカー場が見える、城山・日出峰・・・発電プロペラの林立・・・5ヶ月前、隅々までチャリで走った私にとっては、私の庭を見ているような感じだ。

JEJU空港から直ぐにTheForestHostel&Guesthouseに落ち着く。お馴染みになっているクランクによれば明日は快晴だという。然らば・・・予定を変更して、チャリで環島する前に「ハルラ山」登山を済ませてしまうことにする。

。。。。。。。。。。ハルラ山 登山紀行。。。。。。。。。。

4/22(金) 快晴。6:20 TheForest 至近東門市場前バス停発 100番に乗車。濟州市外バスターミナルで朝飯の弁当・缶ビール・そして昼食のパン類を購入し781番バスで城板岳登山口に至る。缶ビールと日式お弁当をゆったりと味わったのち、08:15歩行開始。広い平坦な道(溶岩岩石を敷き詰めた真っ黒い道と懇切丁寧に敷設された木道・木製階段)が続く。ウィークデイなのに韓国の若い男女が列をなして賑やかに登っている。大陸の韓国本土を含めて「韓国最高峰」、日本の富士山みたいな存在なのか、人気があるようだ。5

0数年来の友人（冒頭の友達）によれば、50年前はソウルの若者の憧れは「済州島」であり新婚旅行のメッカであったと云う。当時の日本で謂えば さながら熱海か、はたまた宮崎日南海岸だったのか？

賑やかなハイカーに囲まれて、私も浮き浮きしながら歩を進める。欧米系も多い。森林限界の茶店の500wの珈琲が旨い。コテコテの甘いインストだ、2回お替りをした。なだらかな頂上までは木道・木階段にガッチリと導かれる。

“おい！今のは日本人か？”——背後で、すれ違った数人の下山グループの一人の声が聴こえた。私の登山装備（自転車用ヘルメットを被っていた）に記された「東京・・・云々」のワッペンを目敏く見つけたらしい。そのまま何もなく上下に別れたが、今日一日・イルボンと認められた唯一の出来事だった。

頂上は“黒山の人だかり”。スマホ・ケエタイ・・・魔法の文明利器を駆使する賑やかなグループでごったがえしている。写真機・ガラケーetc何も持たない私の居る場所はない。火口湖もありきたりのものだ。観音寺ルートは崩壊で通行止めだ、仕方なく往路をそのまま下山路とする。13:30 下山開始。茶屋辺りからは登りのハイカーとは全くすれ違わない。この山は時間制限が厳しく設けられており、或る時間・或る地点からの上りは許されていない。「登り」に道を譲る事をしなくてもいいのだが、故障者リスト入りの私、下山に4時間弱を要した。登りも4時間。

登山口で缶ビール2個を呑み、勝手知ったる Jeju 市街に帰還する。

~~~~~

前回、ハルラ山 登山届を出した際、sirius A氏より市河三喜著「漢羅山行」を紹介され、すぐさま図書館で借りて貪り読んだ。明治38年、朝鮮併合前の韓国の孤島の山に挑んだ先駆者（英文学者）の記録だ。当然のことながら、今の漢羅山（漢拏山・ハルラ山）登山とは異次元の世界であり、著者は日本人初登頂に約2ヶ月、済州島に至るまでだけでも1ヵ月を要している。下山後、楽しく登ったハルラ山を思い起こしながら、sirius O氏より後日 郵送して戴いている同著コピーを何度も読み返している。

以下は、A氏、O氏への 函書を紹介されたことへのお礼と、私のつたない書評である。

（昨年11月のメール）

漢羅山行（市川三喜著・串田孫一編‘忘れえぬ山Ⅱ’に収録）を読んで

‘15 Nov. 26

急に思い立って、韓国済州島を自転車一周する、その序でに済州島最高峰いや韓国最高峰のハルラ山（漢拏山＝漢羅山）に登ることを山なかま・シリウスに届け出た。仲間のA氏からこの山に関する興味深い紀行文があるよ！と紹介され、すぐさま図書館に走り借りて読んだ。

朝鮮併合前の日本と朝鮮&済州島との相関関係、済州島の風俗、ハルラ山の状況などが記され、実に面白い旅行記であった。

朝鮮に対する考え方・済州島の人々（土人と称している）への観察は、当時の日本人いや著者のような知識人でも今の時代から見て偏狭なものだったのだなあ。

三姓祠の伝説に興味をもった。優越する者が男性を演じ弱者被支配者は女性の役割、というのが通常の神話伝説の世界だが、三姓祠伝説では日本から来た女3人が以後の済州島の主役を務めるような設定になっている。連れてきたのが日本の男だったので、やはり

主役は男なのか、いや大和神話では天照大神が女性とされているように濟州島は女性によって発展したのか・・・よう判らん。いずれにせよ日本の都合の良い伝説である事よ！！

ハルラ山登山の厳しさ生々しく描かれているが、今現代では木階段・木道で天候さえ良ければ簡単に登れるらしい。頂上の池で泳ぐのは季節的にも規制的にも無理であろう。

丹念に書きとめた日記から‘抜粋’した、と著者も記しているが全体的にアンバランスで拙劣な表現も目立つ。日記から断片的に取り出して継ぎ接ぎした感じが否めない。英語学者だからと云って日本語が下手な訳じゃなかろう。書き殴った日記の継ぎ接ぎを推敲せずに上梓したのであろう。編集者の孫一さんは朱筆を入れたくってやきもきしたに違いない。でも大先輩のプライドを傷つけるのは憚れたのであろう。

4日後に濟州島に向かう。ビールと豪華な食事の2時間50分のうちに成田から「濟州城内」に至る。市河さんは一ヶ月を要した。——今は昔——

**4/23 (土)** 6時起床、雨だ！ 8時軽食 at Forest、8:30 お馴染みになったレンタルチャリンコ屋に行く。前回は20,000w/day 交渉の結果18,000wだった。今回は初っ端から15,000w X 3day=45,000w と強談し、成功した。

一旦 Forest にチャリで乗り帰り最小限の荷物を整え、9:45 雨を衝いてスタートする。前回行っていない港方面に向かうが、知らず知らずに国立濟州博物館に出てしまった。前回の暴風雨の中を往復したコースを走る。今回も雨だ、一応雨具を被ったが、ずぶ濡れ状態は前回と同じ。



Forest 前にて

金寧の‘件の食堂’に立ち寄り、昼食を摂る。このお店、三度目の訪問である。

今日はのんびり城山までだ、ユネスコ世界自然遺産「万丈窟」に銀輪を伸ばす。素晴らしい！JEJU島の地下は、斯くが如く火山による洞窟・穴凹だらけなんだろうな！

16時、城山に着く。前回泊まった SanTiago Guesthouse では満室のため断られ、日出峰入口にある極々小さいお店に‘民宿’との日本語が小さく表示されているので問えばOKだ、すぐさまお願いして、たった2部屋だけの二階に上がる。所謂ドーミトリ形式ではなく、オンドル（実は電気カーペット）がある広い一人部屋だ。86歳のハルモニが応対してくれた。さかんにイルボン語を口に出し‘使いたがっていた’が、もう既に‘私・川崎の英語独語中語...’並みで日本語の体をなしていなかった。30,000wなり。ゲストハウスの2段ベッド20,000wより少し高いが、ハルモニとの交流と「大の字」手足を伸ばしての熟睡は大いに価値があった。

**4/24 (日)** 07:15 ハルモニの見送りを背にして南に向かう。今日は快晴だ。見覚えのある風景を快調に逆走する。昨年12月の濟州島南海岸はオレンジ・マンダリンが鈴なりで“真ッ黄色”だったのに、今は真緑の世界だ。

ゆっくり走ろうとするのだがセッカチな私、ついつい休憩なしに飛ばしてしまう。南元リゾートに立ち寄る。西帰浦・鳥島付近を散策し、濟州ワールドカップ競技場を隈なく見物する。日韓共催サッカーの時にはさぞかし賑わったことだろうが蹴球にあまり関心のない私にはあまり覚えがない。大規模な素晴らしい競技場だ。不思議なことに通りすがりの異邦人チャリンコ野郎でもふらりと競技場内に入れる。観客席・貴賓席まで出入り自由だ。

ン？ スタンド入口通路の手前に「世界 性文化 博物館」がある。謹厳実直な kawasaki、勉学のために、全世界のサッカーファンを熱狂させたこの由緒ある競技場内部の一角にある博物館を探索した。その見事なこと、その妖艶なこと、その猥褻なこと、その卑猥なこと・・・暫し、此処がスポーツ殿堂の一角だと認識が無くなった。塑像・写真・文書・造形・・・ありとあらゆる私の‘嫌いな’世界が展開しているのだ。此処に？ どうして？・・・日本国技館の一角にポルノ展示場があるだろうか？ 東京ドームに・武道館に そのコンコースに斯くなるコーナーがあるだろうか？

済州ワールドカップ競技場（そして World Sex Culture Museum）で一時間を過ごし、ひたすら西に向かう。快晴無風。前回は見上げただけの山房山の名跡をじっくり楽しんで松岳山に向かう。勝手知ったる領域だと広い農道を進んでいたら予定の松岳山に至らず大静市街に着いてしまった。まあ～いいだろう、宿を探す前に漁港を隈なく走り廻る。“漁港の街” そのものの佇まいだ、最高の雰囲気の中に LemonTree なる GuestHouse を見つけ投宿する。

大静の街～再々度 Jeju を訪れた時には必ず一夜を過ごそうと思う。

**4/25 (月) LemonTreeGuestHouse**, 朝食は最高だ。食べ放題・・・白米・カレー・マーボ豆腐・練り製品・スープ・・・もちろん韓国風朝食・・・コーヒー紅茶・・・宿賃を含めて w20,000(¥2,000)なり。

今日は Jeju 市街まで 50km ぐらいか！ 軽い軽い！ 小坂一也の気分で走り出す。前回、立ち寄らなかった水月峰に遊び、のんびり JejuCity に向かう。忠実に海岸線を辿るのは前回実施済み、しからばチョット内陸を走ろうかと翰林から東明十字路を経て 1136 号道路を辿る。これが失敗か成功か判らぬが、内陸部道路のアップダウンの激しさと、折からの逆風で艱難辛苦を余儀なくされた。やはり風と石と女の島だ、風には難儀させられた。

新済州の町並みの斬新さを味わって、東門市場の定宿 Forest に帰還する。一旦自転車を返還して Forest 近隣で夕食、部屋でデリーの若者、イタリーの若者と歓談。心地よい睡眠に落ち込む。

◀前回北海岸で西風の暴風雨に懲りて今回は‘反時計廻り’で環島したが、大間違いだった。この島では何処でもあらゆる方向から風が吹く。clockwise・counter clockwise は関係なかった。走行の安全性・他車との交差・常に海岸側を走行し展望を楽しむためには counter clockwise がいい。湖などを周遊する場合は時計廻りがいい。・・・但し・・・日本での湖巡り例えば琵琶湖では反時計廻りがいい。交通ルールが反対だから。>

**4/26 (火) 惰眠を貪る。**午後、再度レンタサイクル屋を訪れ、半日だから、と強談し 10,000w で借りて、港に向かう。Jeju の新しい発見だ。CostaAtlantica なる超大型観光船が停泊している。CoastGuard の軍艦に近寄ればブリッジから厳しい叱責の怒鳴り声を浴びせられた。龍頭岩から空港へ、そして新済州へ・・・約束の 17 時に自転車を返却して済州島最後の夜を東門市場の散策で楽しむ。

**4/27 (水) 惰眠を貪る。**13:40Jeju 発、上海でトランスファーする。たった 3 時間なので市街には出られない。広い広い AP をぶらつく。17:15 上海浦東空港離陸、20:55、成田空港着。

計画・予定の 100~120%をこなし、タップリ楽しみ満足した独り旅だった。

再再度 (3 回目)、行ってみようかな？ 思い立ったが吉日だ！ またまた 衝動的に！！

## 第二次 済州島一周自転車旅行 費用概算

2016 年 4 月 20 日～27 日 (8日間)

|                        |               |          |
|------------------------|---------------|----------|
| 航空券                    | ¥18,000       | at Japan |
| 国内空港使用料                | ¥2,760        | at Japan |
| その他諸税                  |               |          |
| 取扱料金                   | ¥0            |          |
| 小計                     | 小計<br>¥30,760 |          |
| 海外旅行保険                 | ¥3,050        | at Japan |
| 4/21 Jeju Forest 泊     | ¥1,640        | at Japan |
| 4/22 Jeju Forest 泊     | ¥1,700        | ←w17,000 |
| 4/23 城山 泊              | ¥3,000        | ←w30,000 |
| 4/24 大静 LemonTree 泊    | ¥2,000        | ←w20,000 |
| 4/25 Jeju Forest 泊     | ¥1,601        | at Japan |
| 4/26 Jeju Forest 泊     | ¥1,501        | at Japan |
| レンタルサイクル w15,000x3 日   | ¥4,500        | ←w45,000 |
| w10,000x1 日            | ¥1,000        | ←w10,000 |
| 4/20 上海磁浮列車 片道         | ¥760          | ←40 元    |
| 4/20 上海 外灘～浦東AP タクシー   | ¥4,200        | ←222 元   |
| 4/22JejuCity→登山口 往復バス代 | ¥360          | ←w3,600  |
| Jeju 島 市内バス代 1,200x4   | ¥480          | ←w4,800  |
| 4/23 万丈窟 入場料           | ¥200          | ←w2,000  |
| 合計                     | 約 ¥56,700     |          |

費用合計 56,700 円 プラス 呑み代・食事代 & お土産代 等

換算レート ¥10,000=w101,530 (前回'15,Dec.=w92690)

換算レート ¥9,656=520 元